

株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月に開催
配当金受領株主確定日	毎年6月30日 中間配当金を支払うときは毎年12月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 ジャスダック市場
公告掲載新聞	日本経済新聞

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

住まいの節り職人

ATOM
LIVINTECH

アトムリビントック株式会社

〒110-8680 東京都台東区入谷1-27-4 TEL 03(3876)0600(大代表)
ホームページ <http://www.atomlt.com/>見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

ATOM LIVINTECH IR NEWS 第62期中間報告書

平成27年7月1日～平成27年12月31日



経営理念 「住まいの飾り職人」が
つくり出す独創的な商品で、
社会の発展に貢献します

社訓 「独り歩きのできる商品づくり」

社是 「創意・誠実・進取」

社名の由来

創業者は江戸指物(鏡台、茶単筒、長火鉢等)の金具職人、即ち繊細な装飾と微妙な細工の技術を要する鋳職でした。

社訓は、創業者の遺した言葉に基づくものであります。

「独り歩きのできる商品」とは、販売に際して、巧言令色や誇大な表現を添えずとも「ひと目でその価値が相手に伝わる商品」を指します。

当社の社是は、ご覧の通りですが、企画開発を旨とする企業として「創意・進取」は元より、独り歩きのできる商品であればこそ、販売に際して「誠実」が貫き得ると考えております。

また社名の冒頭に冠した「ATOM」は設立以来の商標であり、内装金物の分野で、業歴相応の認知と浸透を得ております。

以下に続く「リビングテック」には、ご説明の要もない「リビングテック」の他に、まさしく「技術に生きる=リブ・イン・テック」の意味が籠められており、併もその技術とは、当社がファブレスメーカーであるだけに、単なるハードウェアのみならず、ソフトウェアをも包含する「ノウハウのメーカー」であり続けたいという思いを表しております。

第62期第2四半期累計期間の業績について、 ご報告申し上げます。



代表取締役社長 高橋 良一

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社第62期中間報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当第2四半期累計期間におきまして、当社が関連する住宅市場は、個人消費が底堅く推移したことに加え、被災地での着工増加、低水準にある住宅ローン金利や省エネ住宅ポイント制度など、政府による各種の住宅取得支援政策を背景に、新設住宅着工戸数は緩やかな持ち直しの動きを示しました。その一方、労務費及び建設資材の高騰による住宅価格の上昇、マンション傾斜問題が消費者心理に与えた影響などもあり、本格的な市場回復には未だ至らない水準で推移いたしました。

こうした状況のもと、当社は第62期を初年度とする「第9次中期経営計画(第62期～第64期)」において掲げた「自己改革に基づく新たなステージでの飛躍」とのスローガンのもと、内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発と新たな営業戦略の推進」との基本方針を貫徹すべく、住宅関連産業における企画開発型企業として、より現場主義に徹した商品開発を目指し、機能性と利便性を向上させつつ、市場ニーズに応えるものづくりを推進してまいりました。また、全方位のお客様に対する積極的な営業活動に最大限の努力を傾注するとともに、販売費や一般管理費の圧縮など、調整かつ管理可能な諸施策を講じてまいりました。

こうした取り組みの結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高49億6百万円(前年同期比6.9%増)、営業利益2億28百万円(前年同期比10.6%減)、経常利益2億51百万円(前年同期比10.0%減)、四半期純利益1億54百万円(前年同期比7.3%減)となりました。

当社におきましては、「第9次中期経営計画」の基本方針に基づき、企画開発型企業として新技術の開発、新商品の開発に取り組むとともに、ソフトクローズ関連商品の特異性・発展性を活かして周辺の事業領域を拡大しつつ、折戸・引戸金物以外の分野でも存在感を高めるべく注力してまいります。また、変革期を迎えつつある金物業界において、従来の販売チャネルとの信頼関係を守りつつ、部門の垣根を越えた営業展開を推進し、販路の開拓に努めてまいります。こうした取り組みを通じて、「新たなステージでの飛躍」が可能になると確信いたしております。

平成28年3月

内装金物全般に目を向けた「裾野の広い商品開発」を進めるとともに、部門の垣根を越えた営業展開を通じて、「新たなステージでの飛躍」を目指します。

● 第62期第2四半期累計期間の業績について

部門ごとにばらつきは見られたものの、今後の課題を明確にしつつ、住宅市場の回復を確実にとらえ、業績に結びつけることができました。

当社が関連する住宅市場は、消費増税の反動が薄れる中、分野ごとにばらつきは見られるものの、全体としては改善の方向に向かいつつあると考えております。当社の事業部体制に即してみていますと、ハウスメーカーをはじめとする大手需要家のお客様を対象とする特販事業部や拠点統括部は順調に推移し、売上高では予想を上回る結果となりました。一方、中小の卸売業者や建具メーカーを対象とする卸売事業部では、地方の卸売業者を中心に、後継者難や人材難から事業継続さえ困難な状況が現れ始める中、ビルやマンション等の建設現場関連で資材高騰の影響を受け、当初の想定通りには市場が動かず、一時、需要が停滞する状況が見られ、売上高は予想を下回る結果となりました。こうした状況のもと、当第2四半期累計期間におきましては、裾野を広げる商品開発を進める観点から積極的な開発投資を行うとともに、前期で更新が完了した基幹システムの償却を行ってまいりました。この結果、期初に開示した増収減益といった予想通りの水準となりました。

当第2四半期累計期間の業績についていえば、住宅市場の伸び率が6%前後といわれる中、売上高は前年同期比6.9%増と市場の伸び率を上回っており、住宅市場の回復を確実にとらえ、業績に反映させることができたことと評価いたしております。一方、今後、当社がクリアしなければならない課題も明確になってまいりました。その課題とは、金物市場で他を圧倒する商品力を背景に市

場価格を形成し、当社の収益を下支えしてきた卸売部門の強化にほかなりません。このため、第3四半期において、部門の垣根を外し、各事業部から選抜した人員によるセールスプロモーションチームを立ち上げ、卸売市場の変革期に対応する取り組みを開始いたしました。

● 第9次中期経営計画のスタートにあたって

商品開発に対する積極的な投資を行うとともに、営業体制の強化を通じ、「新たなステージでの飛躍」を目指します。

いよいよ第62期を初年度とする第9次中期経営計画がスタートしたわけですが、当第2四半期累計期間は「新たなステージでの飛躍」をするための方向性と課題が明確になったという意味で、大きな収穫があったと思います。

商品面でいいますと、ここ数年にわたり、ソフトクローズ関連商品を中心に市場を牽引してまいりましたが、さらに商品力を強化するためには内装金物全般にわたって、商品の裾野を広げる活動が必要不可欠です。このため、第2四半期累計期間において積極的な開発投資を行い、来期以降、市場に投入する準備を着々と進めております。

営業面では、先ほどもお話ししました通り、卸売市場に対する強力なご入れが求められています。表面的には卸売市場に特化した取り組みのように見える部分がありますが、金物業界全体が変革期にさしかかっており、ここをクリアしなければ「新たなステージ」も見えてこないと考えております。建設業界において施工を担う方々の技術力の落ち込みが指摘される一方、商品を販売する卸売業者においては後継者難に加え、建設現場を熟

知し商品知識を兼ね備えた人材不足が、金物業界の将来をより不透明なものにしていると言わざるを得ません。今まさに当社が取り組もうとしている課題は、商品面においては、大きく落ち込んだ施工を担う方々の技術力をカバーすべく、商品開発の軸を省施工から簡易施工へとシフトさせ、営業面においてはメーカーの立場として、複雑化する機能商品に対する販売支援活動を積極的に展開することを通じて、金物業界の変革期に対応した戦略を再構築することにほかなりません。

また当社は、かねてより新規市場を開拓するとともに、価格競争力を強化する観点から、上海阿童木建材商貿有限公司を設立するなど、海外市場への進出を図ってまいりました。こうした取り組みの一環として、当第2四半期累計期間においては、今後の成長が期待される東南アジア地域での市場情報の収集とネットワークの構築、さらには海外協力工場の開拓に努め、現地販売ならびに日本国内への商品供給を目指して、2015年7月、ベトナム・ホーチミン市に駐在員事務所を開設し、上海阿童木建材商貿有限公司との連携のもと、現地への商品供給ならびに現地で行われた商品の日本への導入を図るなど、活発な活動を行っております。このほか東南アジアにおきましては、インドネシアへの営業展開を進めております。なお、インドネシアについては営業本部直轄とし、本社から直送する供給体制といたしております。今後は、進出地域の実情を考慮しながら、海外拠点を有効に活用しつつ、柔軟でバリエーションに富んだ営業対応を行っていく考えです。

第9次中期経営計画では、こうした層の厚い取り組みを通じて、「新たなステージでの飛躍」を具現化してまいります。

● 株主の皆様へのメッセージ

住宅市場の回復基調を追い風に、ビジネスチャンスを確認に収益へと結びつけ、さらなる株主利益の向上を図ってまいります。

第3四半期以降の住宅市場ですが、多少の起伏はあるものの、安定した形で推移するものと思われます。「住」は衣食住の三本柱の

一つであり、消費者は自分なりの価値観に基づいた住生活に目を向けつつあると考えております。こうしたニーズに応える取り組みとして、商品面では「裾野の広い商品開発」に注力し、内装金物業界で当社の存在感を高める取り組みを積極的に行ってまいります。営業面では、大きなイベントが数多く控えております。本年春には、3年に一度更新される当社の総合製品カタログ「アトムデータライン」の刊行が迫っております。このカタログは、卸売業者のお客様にご活用いただく機会が多いことから、これを機にセールスプロモーションチームの活動を強化し、卸売市場の停滞を打破していきたいと考えております。加えて4月に開催される「春の新作発表会」では、今回から東京同様、大阪においても土曜日開催を行い、より多くのお客様に進化した商品のバリエーション展開をご覧いただけるよう準備を進めております。とりわけ営業面においては、セールスプロモーションチームによる卸売市場に対する積極的な働きかけを通じて、安定的な収益基盤の確保に努めてまいります。こうした取り組みを通じて、アトムCSタワーを中心に推進している新規事業と既存事業とのさらなる相乗効果を図ってまいります。

最後になりましたが、配当金につきましてご報告いたします。第9次中期経営計画では、安定的な経営基盤の確保と株主利益の向上に努めることを前提に、「利益水準のいかに関わらず、最低でも1株当たり年間25円の配当を維持する」ことを目標に掲げ、株主利益の向上に努めることをお約束いたしております。こうした観点から、中間配当金につきましては1株当たり12円50銭とさせていただきます。また期末の配当金につきましては12円50銭を予定いたしておりますが、業績の推移を勘案しながら柔軟に考えてまいります。

当社では、より多くの投資家の皆様へ、当社の存在意義と着実な経営実績の積み重ねをご理解いただくため、毎年夏に開催される「日経IR・投資フェア」に出展し、投資家の皆様とのマンツーマンによる対話、またホームページを通じたタイムリーな情報開示など、積極的なIR活動を展開いたしております。今後とも当社は、株主の皆様との密接なコミュニケーションを深めつつ、株式市場における認知度の向上に努めてまいります。株主の皆様におかれましては、引き続き、当社の経営方針ならびに経営施策に対するご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「2015秋の内覧会」を開催いたしました。

2015年10月、当社の商品をより良く知っていただくため、大阪(10月7日～10日)と東京(10月14日～17日)で毎年恒例の「秋の内覧会」を開催いたしました。会場では、コンパクトでコストパフォーマンスに優れた、新世代引戸ソフトクローズFCXや新型下荷重式引戸用ソフトクローズなど、多彩な新製品を施工例とともにご紹介いたしました。今回、大阪会場では、より多くのお客様にご来場いただくため、会期を土曜日まで延長して開催いたしました。お客様からご好評をいただいたことから、「春の新作発表会」においても土曜日開催を行うことにいたしました。また東京会場では、スタッフ手づくりの「クロスワードパズル」を解いていただき、プレゼントをお受け取りいただくフロアラリーを実施いたしました。

東京 アトムCSタワー



大阪 アトム住まいの金物ギャラリー大阪



跳ね上がり抑制付

FCX-2940-K-H / AFD-2940-K-H



戸先・戸尻ともにソフトクローズ機構を使用する場合、扉幅に制限がありました。2wayソフトクローズFCXでは、最小扉幅をより狭く抑えることが可能になりました。このFCXシリーズAFDタイプに「跳ね上がり抑制機構」を搭載しました。

フリクションハンドル



引戸の開閉時にハンドル部分に誤って寄りかかってしまっても、ハンドルが床に接地して引戸の動きを抑制することで、金具の破損やレールへの負担を軽減し、転倒の予防も期待できます。

下荷重式引戸ソフトクローズ

FC-122



ガイド部にソフトクローズ機能が内蔵され、面付けでの取り付けが可能。引戸の戸首加工や掘り込み加工は不要で、施工も容易な製品です。また「跳ね上がり」への対策も取り入れられた機構となっているため、スムーズな開閉を実現しています。

7月

「第49回全国建具展示会 全国建具フェア」に出展いたしました。

7月10日(金)・7月11日(土)の2日間、東京ビッグサイトTFTホールにて開催されました「第49回全国建具展示会 全国建具フェア」に出展いたしました。会期中は新世代引戸ソフトクローズFCXの実物大施工サンプルを中心に展示し、多くの方々にご紹介いたしました。



8月

「日経IR・投資フェア2015」に出展いたしました。

8月28日(金)・8月29日(土)の2日間、東京ビッグサイトで開催されました日本経済新聞社主催の「日経IR・投資フェア2015」に出展いたしました。会期中は、当社出展ブースならびに会場別・会社説明会にたくさんの方々にお越しいただき、直接お話しさせていただき、多くの個人投資家の皆様に「当社のありのままの姿を知っていただく」という目的を果たすことができました。



「ホーチミン駐在員事務所」を開設いたしました。

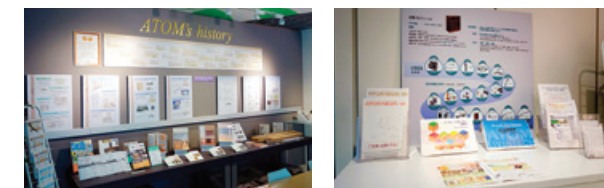
2015年7月27日、今後の成長が期待される東南アジア地域での市場情報の収集とネットワークの構築及び海外協力工場の開拓を目的として、ベトナム社会主義共和国ホーチミン市に駐在員事務所を開設いたしました。今後、現地販売を目標とするとともに、日本国内への商品供給を目指してまいります。



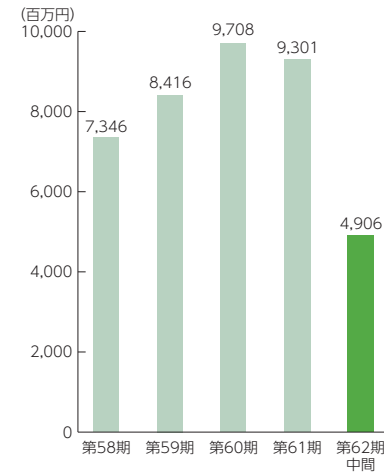
10月

アトムCSタワー内に「IRコーナー」をオープンいたしました。

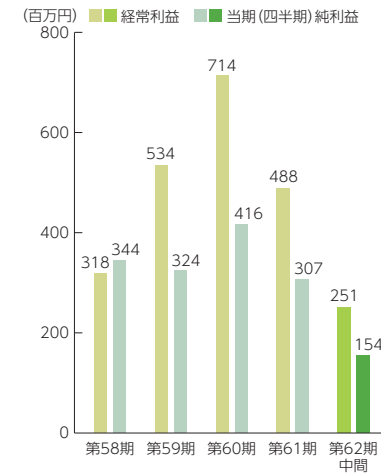
株主の皆様をはじめ、個人投資家の方々とのコミュニケーションを強化するため、「2015秋の内覧会」を機に、アトムCSタワー2階に「IRコーナー」をオープンいたしました。「コーポレートストーリー」や「第9次中期経営計画」などの資料をご自由にお持ち帰りいただけます。お近くにお越しの際には、是非とも気軽にお立ち寄りください。



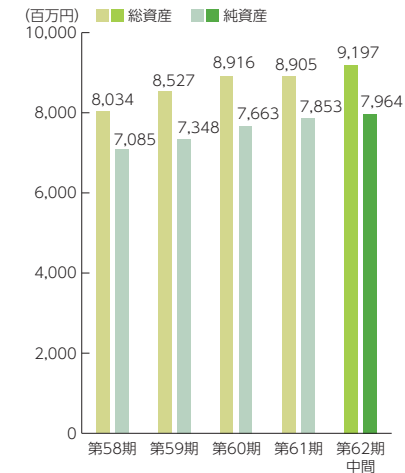
● 売上高



● 経常利益／当期(四半期)純利益



● 総資産／純資産



● 主要経営指標

	第58期	第59期	第60期	第61期	第62期中間
売上高営業利益率 (%)	3.5	5.9	7.0	4.8	4.7
総資本営業利益率 [ROA] (%)	3.3	6.0	7.8	5.0	2.5
自己資本利益率 [ROE] (%)	5.0	4.5	5.6	4.0	2.0
流動比率 (%)	751.6	623.5	596.0	743.0	627.4
固定比率 (%)	52.3	46.1	47.4	44.2	43.6
自己資本比率 (%)	88.2	86.2	85.9	88.2	86.6
1株当たり純資産額 (円)	1,776.0	1,841.7	1,920.8	1,968.4	1,996.1
1株当たり当期(四半期)純利益 (円)	86.3	81.5	104.3	77.1	38.8
1株当たり(中間)配当額 (円)	20.00	25.00	30.00	25.00	12.50
配当性向 (%)	23.2	30.7	28.8	32.4	32.2

単位：千円 (千円未満切り捨て)

科目	期別	前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)	前期 (自平成26年7月1日 至平成27年6月30日)
売上高		4,591,971	4,906,859	9,301,198
売上原価		3,338,528	3,625,698	6,769,424
売上総利益		1,253,443	1,281,160	2,531,774
販売費及び一般管理費		997,732	1,052,491	2,088,696
営業利益		255,711	228,669	443,077
営業外収益		25,579	23,271	47,385
営業外費用		1,425	40	1,918
経常利益		279,865	251,901	488,545
特別利益		—	—	—
特別損失		43	1,786	2,211
税引前四半期(当期)純利益		279,822	250,114	486,333
法人税、住民税及び事業税		94,256	100,333	139,634
法人税等調整額		18,412	△5,154	39,139
四半期(当期)純利益		167,153	154,935	307,558

四半期
損益計算書

Point

販売費及び一般管理費

設備投資による減価償却費の増加などにより、前年同期比54百万円の増加となりました。

四半期
貸借対照表

Point

現金及び預金

増減の詳細につきましては、
キャッシュ・フロー計算書の
コメントをご参照ください。

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成27年6月30日現在)	当第2四半期 (平成27年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産			
現金及び預金		1,319,439	1,432,845
受取手形及び売掛金		2,463,215	2,661,733
有価証券		1,101,150	1,000,370
商品		511,602	575,747
その他		39,613	55,582
貸倒引当金		△246	△266
流動資産合計		5,434,774	5,726,013
固定資産			
有形固定資産			
建物（純額）		1,055,743	1,032,610
工具、器具及び備品（純額）		128,707	107,684
土地		1,027,767	1,027,767
その他（純額）		12,690	10,262
有形固定資産合計		2,224,909	2,178,325
無形固定資産			
投資その他の資産			
投資有価証券		1,021,139	1,071,895
その他		93,186	96,072
貸倒引当金		△0	△0
投資その他の資産合計		1,114,325	1,167,967
固定資産合計		3,470,889	3,471,730
資産合計		8,905,664	9,197,743

単位：千円（千円未満切り捨て）

科 目	期 別	前 期 (平成27年6月30日現在)	当第2四半期 (平成27年12月31日現在)
(負債の部)			
流動負債			
買掛金		535,696	649,634
未払法人税等		13,644	104,609
その他		182,091	158,370
流動負債合計		731,432	912,614
固定負債			
退職給付引当金		144,375	139,590
役員退職慰労引当金		173,429	178,554
その他		2,600	2,600
固定負債合計		320,404	320,744
負債合計		1,051,837	1,233,359
(純資産の部)			
株主資本			
資本金		300,745	300,745
資本剰余金		273,245	273,245
利益剰余金		7,303,097	7,418,134
自己株式		△64,475	△64,475
株主資本合計		7,812,611	7,927,648
評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金		41,215	36,735
評価・換算差額等合計		41,215	36,735
純資産合計		7,853,827	7,964,384
負債純資産合計		8,905,664	9,197,743

四半期
キャッシュ・フロー
計算書

単位：千円（千円未満切り捨て）

科目	期別 前第2四半期累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)	前期 (自平成26年7月1日 至平成27年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△46,148	165,256	290,325
投資活動によるキャッシュ・フロー	△154,087	△111,834	△242,874
財務活動によるキャッシュ・フロー	△59,889	△40,011	△119,727
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	△3	-
現金及び現金同等物の増加（△減少）額	△260,125	13,406	△72,277
現金及び現金同等物の期首残高	2,191,716	2,119,439	2,191,716
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	1,931,591	2,132,845	2,119,439

※現金及び現金同等物には、有価証券勘定に計上している譲渡性預金を含めて表示しております。

Point

営業活動によるキャッシュ・フロー

主な資金増加要因は、税引前四半期純利益250百万円、仕入債務の増加額113百万円等によるものです。また主な資金減少要因は、売上債権の増加額198百万円等によるものです。

Point

投資活動によるキャッシュ・フロー

商品開発の金型など有形固定資産の取得による支出48百万円、投資有価証券の取得による支出54百万円等によるものです。

Point

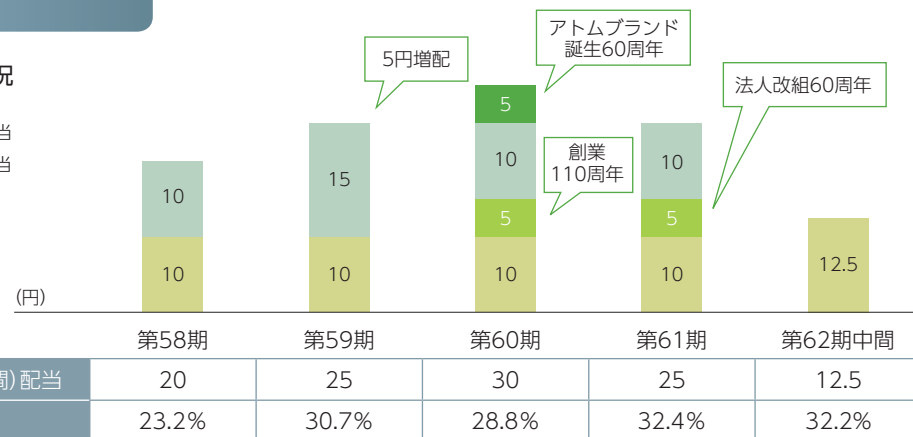
財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額40百万円によるものです。

配当状況

● 1株当たり配当状況

- 1株当たり期末記念配当
- 1株当たり中間記念配当
- 1株当たり期末配当
- 1株当たり中間配当



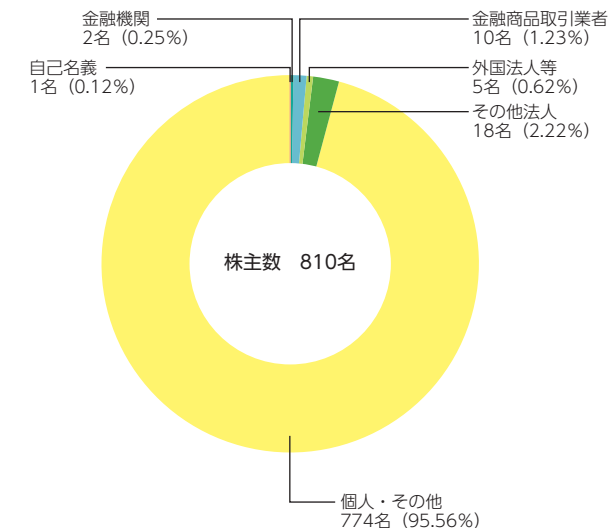
株式の概要

● 株式状況（平成27年12月31日現在）

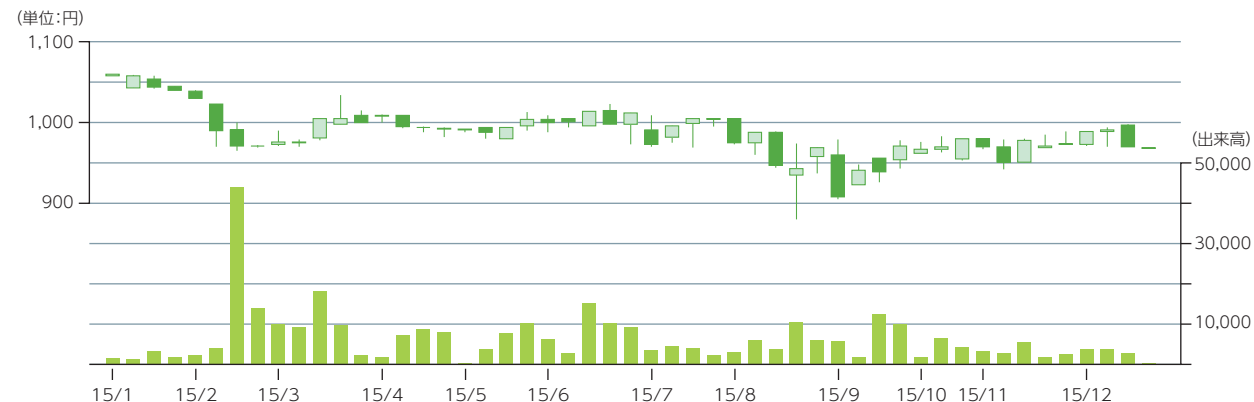
発行可能株式総数 15,420,000株
 発行済株式の総数 4,105,000株
 株主数 810名
 大株主（上位10名）

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
高橋不動産株式会社	885,440	21.56
高橋快一郎	500,000	12.18
アトムリビントック取引先持株会	361,100	8.79
アトムリビントック従業員持株会	305,460	7.44
高橋良一	290,000	7.06
高橋寿子	157,000	3.82
大塚李代	137,000	3.33
アトムリビントック株式会社	115,117	2.80
佐藤俊夫	92,600	2.25
磯川産業株式会社	81,500	1.98

● 株主の所有者別分布状況（平成27年12月31日現在）



株価および出来高の推移



会社概要 (平成27年12月31日現在)

商号	アトムリビンテック株式会社
創業	明治36年
設立	昭和29年10月
事業内容	家具用金物・建具用金物・陳列用金物等、 住まいの金物全般の企画・開発・販売
主要取引銀行	株式会社みずほ銀行 株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社三井住友銀行
従業員数	115名 (嘱託9名・パート17名・現地採用者1名含まず)

役員 (平成27年12月31日現在)

代表取締役社長	高橋良一
取締役	森内弘
取締役	上田嗣夫
取締役	鈴木英光
取締役	伊藤友悌
取締役	金子豊
常勤監査役	馬場敏雄
監査役	輿水洋一
監査役	高島良樹

事業所一覧 (平成27年12月31日現在)

本社	〒110-8680 東京都台東区入谷1丁目27番4号 TEL 03-3876-0600
アトムC/Dセンター (商品本部)	〒340-0022 埼玉県草加市瀬崎4丁目15番19号 TEL 048-922-5551
札幌営業所	〒060-0907 北海道札幌市東区北七条東3丁目28番32号 井門札幌東ビル1F TEL 011-748-3113
前橋営業所	〒371-0805 群馬県前橋市南町3丁目72番7号 TEL 027-223-2651
広島営業所	〒733-0031 広島県広島市西区観音町16番地9 TEL 082-291-4235
アトムCSタワー	〒105-0004 東京都港区新橋4丁目31番5号 アーバンスタイル事業部 TEL 03-3437-3673 ショップ&ショールーム亜吐夢金物館 TEL 03-3437-3440
アトム住まいの金物ギャラリー大阪事業所	〒564-0052 大阪府吹田市広芝町18番地5 TEL 06-6821-7281

海外拠点 (平成27年12月31日現在)

ホーチミン駐在員事務所(ベトナム社会主義共和国) ※平成27年7月27日開設
子会社:上海阿童木建材商貿有限公司(中華人民共和国)

シリーズ企画

アーバンスタイル研究所
最前線

SPECIAL ISSUE

アトムCSタワーが「新虎通り」の新名所に!



「新虎通り」に位置するアトムCSタワーは、住生活の近未来を先取るプレゼンテーションの場として注目を集めています。「新虎通り」は、都市再開発と道路整備を一体化した環状2号線のうち、虎ノ門から新橋にいたる1.4キロの愛称で、2020年の東京オリンピックでは、選手村と競技会場などを結ぶ要衝を占めることから、一躍、脚光を浴びることになりました。

アトムCSタワーは、すでにご案内の通り、近未来の住空間づくりをテーマに掲げ、実験的なギャラリーとして独自の視点からアプローチを行うとともに、多彩なジャンルの職人とのコラボレーションから生み出されたアイデアを具現化することで、当社の新規事業創出の拠点として、また住まいづくりに関わる情報発信基地として、重要な役割を果たしております。

今、注目を集めているのは、1階に開設されている「ギャラリーショップ KANAGU」。「KANAGU」は、素材感やデザイン、仕上げの隅々にまで職人のこだわりが凝縮した、雑貨やインテリアを販売する、新鮮な驚きにあふれたお店です。2015年6月27日放送の「有吉くんの正直さんぽ」(フジテレビ系列)に続き、2016年1月30日には「ぶらり途中下車の旅」(日本テレビ系列)でも取り上げられ、「新虎通り」の新名所として定着しつつあります。株主の皆様におかれましては、お近くにお越しの際には、是非とも、お立ち寄りください。

ホームページも是非ご覧ください。

<http://www.atomlt.com/>

企業・財務情報をはじめ商品情報・オンラインショップなど、さまざまなコンテンツをご用意しております。是非ご覧ください。



ウッドデザイン賞受賞



JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2015

アーバンスタイル研究所がプロデュースした「木香 TOKYO FURNITURE」が、第1回ウッドデザイン賞〈ライフスタイルデザイン部門〉を受賞いたしました。

木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度「ウッドデザイン賞」で、当社のアーバンスタイル研究所がプロデュースした「木香 TOKYO FURNITURE」が〈ライフスタイルデザイン部門〉で受賞いたしました。当社では、今回の受賞を励みとして、日本の文化と知恵を引き継いだ暮らしの空間を提案し続けるとともに、海外に向けて日本の美意識をベースとしたライフスタイルの提案を発信してまいります。なお、受賞作品は、アトムCSタワー8階「White Gallery」で展示しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

